

## 基準 8 施設・設備

## (1) 観点ごとの分析

8 - 1 大学において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、有効に活用されていること。

観点 8 - 1 - : 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、講義室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館その他附属施設等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

## 【観点到係る状況】

校地面積は624,771 m<sup>2</sup>であり、大学設置基準第37条の規定により算出される必要な面積156,658 m<sup>2</sup>を大幅に上回っている。校舎面積は316,116 m<sup>2</sup>（職員宿舎を除く）であり、大学設置基準第37条の2の規定により算出される必要な面積150,170 m<sup>2</sup>を大幅に上回っている（資料8 - 1 - - A、別添資料8 - 1 - - 1）。

また、15年に定められた「鹿児島大学キャンパス・マスタープラン」（別添資料8 - 1 - - 2）に基づき施設、インフラ、屋外環境等の計画的整備及び管理運営を一体的に実施している。

教育用設備については、講義室の機器設備や学内共同教育研究施設の情報機器等が整備されている。また、「国立大学法人鹿児島大学における施設等の有効利用に関する基本方針」及び「国立大学法人鹿児島大学における施設マネジメントに関する基本方針」（別添資料8 - 1 - - 3）に基づき、施設の点検・評価を踏まえた施設の有効活用及び計画的な維持管理等、施設マネジメントを推進し、教育研究活動に対応した施設整備を実施している。

また、バリアフリー化に関しては、施設の新築、改修時には「鹿児島県福祉のまちづくり条例」（別添資料8 - 1 - - 4）に準拠し、全学的に実施している。農学部においては、民間の資金、運営能力及び技術的能力を活用して行うPFI事業（改修）により、積極的なバリアフリー化が進められている。

## 資料 8 - 1 - - A

## 鹿児島大学概要

(P56: 土地・建物・船舶)(P37\_38: 役員・教職員数/学生の定員・現員)

(出典 鹿児島大学概要)

## 【根拠資料欄】

別添資料 8 - 1 - - 1	土地・建物・船舶、役員・教職員 / 学生の定員・現員（鹿児島大学概要）
別添資料 8 - 1 - - 2	鹿児島大学キャンパス・マスタープラン（抜粋）
別添資料 8 - 1 - - 3	国立大学法人鹿児島大学における施設等の有効利用に関する基本方針 国立大学法人鹿児島大学における施設マネジメントに関する基本方針
別添資料 8 - 1 - - 4	鹿児島県福祉のまちづくり条例（鹿児島県ウェブサイト）

## 【分析結果とその根拠理由】

校地面積は大学設置基準第 37 条による必要面積を、校舎面積も同第 37 条の 2 による必要面積を大幅に上回っており、必要な施設は整備されている。講義室の機器設備や学内共同教育研究施設の情報機器などの教育用設備は適切に整備され、稼働状況からも有効に活用されていると判断できる。バリアフリー化についても全学で取り組んでおり、現在、農学部で実施されている施設改修では、車いす対応のエレベータ、障害者対応のトイレ、スロープ、手すり、点字ブロックの設置などの対応がとられている。

以上から施設設備は、適切に整備され、活用されている。

観点 8 - 1 - : 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

## 【観点に係る状況】

情報ネットワークは、学術情報基盤センター（資料 8 - 1 - - A、別添資料 8 - 1 - - 1）によって構築・運用・管理されている。キャンパス内の基幹ネットワークは、ギガビットスイッチと光ファイバーによる高速性、無停電電源装置と主要な機器の冗長化による安定性、そして 15 台のファイアーウォールの集中管理による安全性が確保されている。セキュリティ面には十分留意し、学術情報基盤センターに設置された情報セキュリティ対策支援室が一元的に対策を図っている。

また、学術情報基盤センターや共通教育棟をはじめとする学内の 19 以上の端末室に設置されている 835 台以上のパソコンが共通教育・専門教育の授業、ゼミ、自習、情報検索、卒業研究、論文執筆、就職活動に利用できるように情報端末機器として整備され、すべて情報ネットワークに接続している。授業等で使用されていない時間帯であれば自由に利用できるほか、全利用者がメールアカウントの発行を受けて教育研究に有効に活用している。この他、TOEFL をはじめとする各種資格試験の端末室での受験も可能としている。さらに、「オープンネットワーク」として、学生所有のパソコンをキャンパス情報ネットワークに接続し、教育・研究に活用できる体制とともに、一部キャンパスでは、無線 LAN を整備している。

## 資料 8 - 1 - - A

## 鹿兒島大学情報基盤センターウェブサイト

(<http://www.kagoshima-u.ac.jp/contents/gakunai/kyou/index.html>)



(出典 鹿兒島大学ウェブサイト)

## 【根拠資料欄】

別添資料 8 - 1 - - 1 学術情報基盤センター概要（リーフレット）

## 【分析結果とその根拠理由】

キャンパス情報ネットワークに接続された端末室等のパソコンでは、学術情報基盤センターを中心に各部局の連携の下、授業の無い時間帯や授業時間外であれば、自習室として学生が利用できるようになっている。また、無線 LAN システムを整備している。以上から、学生のニーズを満たす情報ネットワーク環境が整備され有効に活用されている。

観点 8 - 1 - : 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。

## 【観点到に係る状況】

施設・設備を大学の共有財産として、施設等の有効利用を図ることによる教育研究活動の発展に資することを目的として、「国立大学法人鹿兒島大学における施設等の有効利用に関する基本方針」及び「国立大学法人鹿兒島大学における施設マネジメントに関する基本方針」(前述別添資料 8 - 1 - - 3)を役員会で決定した。これを受け各部局においても方針等が規定され実際に運用されている。

各キャンパスの施設設備では、省エネルギー活動を効果的に推進している。また、クールビズやウォームビズなどのパンフレット及びポスターを作成し、回覧や掲示を通じて周知を図っている。この取り組みが認められ、17年度九州地区省エネルギー月間表彰式において、エネルギー管理優良工場等九州産業局長表彰を受賞している(別添資料 8 - 1 - - 1)。

部局単位では、環境・安全・衛生委員会等の委員会を設け、各研究室で実験・実習等に対する安全上の配慮や運営に関して検討し、現場に対して指導している。

情報機器に関してもセキュリティポリシー等を定め、学内の運営方針を示すと共に、セキュリティ侵害に対しては専門業者によるネットワーク監視等を行う体制としている。

#### 【根拠資料欄】

別添資料 8 - 1 - - 1 エネルギー管理優良工場等九州産業局長表彰受賞資料(鹿大広報 No. 172)

#### 【分析結果とその根拠理由】

前掲二つの基本方針(前述別添資料 8 - 1 - - 3)に基づき、各学部で施設マネジメントに関する委員会を設置している。部局単位では、実験・実習等、安全に実施できるよう、各種委員会で運用方針や安全上の問題点等を検討し、現場に周知している。

情報機器に関してもセキュリティポリシー等を定め、対策室で万全の体制をとっている。

以上から、施設設備の運用に関する方針は明確に規定され、構成員に周知され、さらに実行に移されている。

8 - 2 大学において編成された教育研究組織及び教育課程に応じて、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備されていること。

観点 8 - 2 - : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

#### 【観点に係る状況】

附属図書館(別添資料 8 - 2 - - 1、別添資料 8 - 2 - - 2)は、中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館により構成し、18年4月1日現在、蔵書数 1,278,270 冊、雑誌種類数 40,210 種を所蔵している。教育研究上必要な資料を整備するため、各分野の専門図書を順次整備すると共にシラバス対応図書を優先的に整備している。

電子ジャーナルは、約10,000タイトルが閲覧可能であり、各種文献データベースも利用できる。グループによる図書館資料を利用した学習・研究活動のため、中央図書館には、視聴覚機器等も備えた「グループ学習室」が設置されている。また、附属図書館のウェブサイトから文献複写申込や図書購入依頼等の申し込みができるウェブクエストサービス機能を提供している。

学内の教員、大学院生によって生産された研究成果物を保存・公開し、学術情報流通の発展に寄与することを目的として、19年度から鹿児島大学リポジトリ(附属図書館ホームページ、<http://ir.kagoshima-u.ac.jp>)事業に取り組んでいる。

これらの活用状況については、蔵書数、年間利用状況、レファレンスサービス、文献複写件数一覧、満足度については図書館利用者アンケート集計結果(別添資料 8 - 2 - - 3)から判断できる。

## 【根拠資料欄】

別添資料 8 - 2 - - 1	附属図書館（鹿児島大学概要）
別添資料 8 - 2 - - 2	附属図書館概要
別添資料 8 - 2 - - 3	附属図書館アンケート結果報告（平成 18 年 10 月実施） ( <a href="http://reo.lib.kagoshima-u.ac.jp/~nanpu/enq/gaiyo.c.html">http://reo.lib.kagoshima-u.ac.jp/~nanpu/enq/gaiyo.c.html</a> )

## 【分析結果とその根拠理由】

図書、学術雑誌、視聴覚資料は、附属図書館で管理され、電子化がなされ利用しやすく整備されている。アンケートに示された学生の満足度から、有効に利用されていると判断できる。

## ( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

附属図書館では、IT 環境として、利用者用端末、オープンネットワークや無線 LAN も設置されている。また、中央図書館には、グループによる図書館資料を利用した学習・研究活動のために、視聴覚機器等も備えた「グループ学習室」が設置され、資料の有効活用を図る体制が作られている。

## 【改善を要する点】

特になし

## ( 3 ) 基準 8 の自己評価の概要

校地面積に関しては、大学院設置基準に基づき、学生が健全に学習できるよう必要なスペースを確保している。また、情報ネットワークについても、教育・研究上必要な設備を確保するとともに、運用に関してもセキュリティ対策も講じながら円滑な運用ができています。

施設・設備の運用に関しては、大学全体としての方針が示され、部局単位では、実験・実習に関して、安全・円滑に使用できるよう各種委員会のもとに研究室等に指導する体制をとっている。

また、附属図書館も機能充実を図り、学術情報等できるだけ多くの内容を伝えることができるように、充実を図っている。

